

羽越三基圖繪亭



道院樓主人三坐の戲場を三才号法子比
 うかりう賣乃口とく三基を圖絵と題一築臺
 乃上茂異因と一遊具建れ日月山川禽
 獸虫魚草木花紋の吳あるを園産と
 玉鳳のうらまゝ三階乃隈第のまゝなり
 ことくを注す水と宜哉戲場乃別世界
 なるる人物をきりくつどもつくと
 なるる

三

身其を顔桃源乃仙境ももつて一白く

賢思を飛一面白きをかゝる性善青ハ

変之性悪くもく立給ふ大悪不道赤く

立給ふ大勇士も眼下赤きは是まつく

さし人情乃かゝるあり怒歎時を換敷も

切落も鼻茂かも此年換敷もお怒どく貫

乃袖をぬらしきる女も金持も多

ふ男も右茶借金小見お乃女中が氣

と操金も催促ひが打擲も不時も金持

も質屋此も代も手足曲るも云ふハ勢

揚屋乃二階一帯刀をもる一里扶持の

を勅使上使のあはれもかゞ足此ある幽天

紺足袋此馬を号法小注あはれ道陀樓

乃主人書よ字とらじハ表因生此置乃

より一紙友つりて星相と経く今年道成

持此木戸羽織鱗形屋此ある一梓の

うら子序せよと平よとふりいもく油野開帳

乃技藝かぶらび狂言此物にあり馬の小便

一杯二文小咽をぬけて書此ことらとをさふ

も言を誤ハ福山乃蕎麥と太者此かもし有

とがく辞るよあるはんところきく字と執く

戯場好乃童里乃あふれ乃幕明き一巻ん此

はづめ頗口上ととく侍りてはあん

戌二陽 二あり光 

頃日初く芝居をよめとえ侍り小き首を並くあぬ家物の

失ふるとして孫日主事小のこ立務をねむらぬおせじりと回念

人のつあまき一とれ古き落世あれと見物文音の物く千人に人の

かろ後乃何ぬぬきふもあはれ又芝居の記畧こいたる者もふ人

一人高者の掛物糸を源をほく入ふれが二階の爰三階乃

裏をえんひりてとれ花屋の宿小及ぶ切落の中程小なして衣

帯の好を何ふのあれが波廊家言人志て戲場と二ツの西ある

とら久むとの情と二重の風俗かとうて體の異なるもの不景も歌し

用の異なるもの考へ評して和漢三文書舎のつたれ少よつて羽助

寛政三年亥の夾

前卷三三 道蛇橋良人  

羽勘三臺圖會目錄

上之卷

三臺紀原

羽勘字義

三國地理并圖

○天文

▲三光

▲聳降

▲時候

▲震動之說

中之卷

○地理

▲土水火

▲郷里

神社佛閣

▲家作

▲氣形

禽獸 蟲魚

▲生植

木竹

下之卷

○人事

▲肢體

▲疾病

▲官位

并名字

衣服

▲飲食

▲卷財

▲神佛

雜事

○三臺紀原

上古天皇氏地皇氏人皇氏アリコレシ三皇ト云又伏犧神農黃帝
 コレシ三皇ト云ニ皇ト三皇相會ノ此方カ實ニ三皇也イヤ此方カ正銘交
 ナシニ皇也ト論時ナシ家主盤苦皇中ニ入テ割シ付テ曰西方共ニ三
 皇ナレハ則ニ相皇也勝負アルベカラスト制シ玉フトイ(元尚)雙方鹽屋
 シ云テ赫々タリ其時伏犧神農黃帝口ヲ揃テ曰此方ニ三種宝アリ
 其一ハ金ノ銀杏也コレシ中都ニ藏ム其二ハ銀ノ橘也コレハ市巷ニ藏ム
 其三ハ玉ノ酢醬艸也コレハ森林中ニ藏ム其方ニ毛斯ル證拠アリヤト問玉フ此時
 上古ノ三皇ノ曰我々上古ニ生ルトイ(元證)拠ナケレハ為事カナイト云テ
 暫ク黙然トシテ居玉ヒシカ乍太ヒ憤シ發シテ天皇氏中都ニ入り
 金ノ銀杏ノ葉ヲ取テ東海ニ擲ツ地皇氏市巷ニ入テ銀ノ橘ノ葉一實
 ツ取テ東海ニ擲ツ人皇氏森林中ニ入テ玉酢醬艸一葉ヲ取テ東

海ニ擲ツ而後金ノ銀杏東海ノ倭嘉矣潮ニ落止マリ銀ノ橋ハ富貴也潮ニ落止リ玉ノ酢醬性ハ詔美喜潮ニ落止リ其後數千載ノ經テ先倭嘉矣潮ニ国ヲ生ズ中都ノ宝變ノ国トナル故ヲ以テコレヲ中国ト号ス是大明ノ天啓四年日本ノ寛永元年也又其後富貴也潮ニ国ヲ生ズ市巷ノ宝亦々メ国トナル故ヲ以テコレヲ市国ト号ス大明ノ崇禎七年日本ノ寛永十一年也又其後詔美喜潮ニ国ヲ生ズ森林中ノ宝亦々メ国トナル故ヲ以テコレヲ森林国ト号ス是大明ノ永曆十四年日本ノ萬治三年也ト云

三国ノ地形風土人氣比皆也中国ト市国ハ遠カラズト云凡中間ニ福山下云大山有其外四五ヶ国ヲ隔ツ高麗国也此四五ヶ国内也又森林国ハ數萬里ヲ隔ツト云凡地形風土人氣郡縣ノ各ニ玉マテ異ナルヲナシト云

市ノ市国ニ遠ク奇ト云云

三国ノ中央ヲ市州ト号ス凡都ス一國也他ハ比皆外國トス三国ノ中央ヲ指テ三臺ト云此書ハ比皆臺外ノ事ニ記ス

○羽勘字義

羽ハ展也勘ハ定也三臺ノ事ヲアツメカケ也又中国ノ名勘州ト号ス勘ハ甚シ偏ニカニ傷ル字也當國ハカ甚シキ國ナル故ニ勘州ト号スト云市国ハ名勘州ト号ス羽ハ字註ニ為水為智ト云水ハ粹也引幕道具立等工夫ヲ以テコレヲ始メシ故此国ヨリ智ヒラケタリト云意ニテ羽州ト号ス又森林国モ一名勘州ト云字註ニ勘校トアリテカシカ也中国市国一段上ツカシカフト云意ナレ凡ニツノ勘州アリテマギルニ云中国ノ前勘ト云森林ノ後勘ト云今中国ノ中勘国ト云ヒ市国ヲ市羽国ト云ヒ森林国ヲ森林勘国ト云サレハ羽勘ト云テ三臺ノ事ニ通ス中勘ハ初ノ國ナレハ勘羽ト云ベキナルニ當國ハ未シ以テ上下スル礼アリ人ノ名ヲ書シ人ノ名ヲ呼ブ

毛皆鼻位人初トシ高位人ヲ未トス宗十郎シマ幸四郎シマ團十郎
シマアト云カ知シ

當國ハ物甚キ國也一躰人ハ勿論禽獸虫魚牝水ニ至ル迄正直也上代
ノ氣凝テ生シタル國ニハ善人ハ至テ善惡人ハ至テ惡也智者ハ大ニ智
有リ愚者ハ大ニ愚也女ハ甚負實也容艷ニテ惡心アル女ハ變子ノ物
善人ハ善相アルハ惡人ハ惡相アリ色ヲ好ムヲ又甚シ就中惡人ハ
色深ク親子ノ前ノ見サカヘモ無シサレ日本ノコトク性惡ハ稀也只一
人ニ思入テ無理ヲ行フニ弥合点セズ合点セズト直ニ無多別出
ス也善人ハ顔カラシテ違フ故無理ナラセズ相應ニ色更モ出來ル
也老女トナリテハ至テ惡人アリ老テ後多クニ惡人ニナルカ若キ女ニ
惡人ナクテ老女ニシテハ不審也若キ女モ百人二人惡人
ルヲアテコレハ容貌モ極惡シサレ老女ヲ見ルニ十人ノ内五人ハ惡人
也若キ女ニテハ合テ割カ合ハズ也惣メ他國ノ眼カラハ知レカクキ
フ多シ尚人事ノ部以考ヘシ

○三國地理并圖

○本舞縣 府也 ○下座縣 羅漢臺 臺州ノ内トイハレ異國ノ
今置ク臺也日本ノ鳴肝館ノ氣味ニテ大ニ雜ナルモ也此臺ヨリ
見レハ國中殘ナク見エルトイハレ肝心ノ臺州ハ余リ近過テ脊
中ヲ見エルト云木訥國ハ羅漢臺ト云ハス臺ノ作り方棧州臺
ニ似タリ

○本花道西棧道ニ通ス

臺州ハ廣サ計リガタシ狭イマウニテ廣シ遠州濱松トハアチヲ云フ也

樂州

●臺下郡或ハ其臺州ノ内ト云岩窟覆ヒ重テ日ヲ見フナク昼燈
火ヲ用ユト云カ濕地也 ●三階郡 ●二階縣 ●稻荷縣 ●雜子縣 ●樂
口關 樂州ハ他國ノ人ヲ禁ズルニイカナル所ト云フヲ知ラズ小使
ニ出タ位ノフテハ中々以ハカリシラヌフ也

東棧州

●東上郡 ●内格山 ●大夫山 ●平山 ●棧道
●東下郡 ●東鷲郡 凡云 ●内慈原縣 ●大夫縣 ●新裕縣 ●棧道

西棧州

西上郡 ○内格山 ○大夫山 ○平山 ○棧道
西下郡 西鶉郡 内簾縣 ○大夫縣 ○切幕園 ○棧道

向棧州

龍耳郡 ○引舟縣 ○棧州 棧道 西下郡 棧道 北
樂州 二通 南ハ ○追込縣 後棧道 ○大鼓標 本花道 二通 東下郡
棧道 毛樂州 二通 不トイ 厄旅行 稀也 是シ 通行ス 南ト云 西下
棧道 同カラス 道難所 多シ

下州

東上郡 ○本土縣 ○前土縣 ○東花道 ○切落郡 ○奥身縣 ○新土縣
留場園 ○西土郡 ○本土縣 ○前土縣 ○中間郡 中牛道

表州

追込縣 ○木戸關
除場縣 ○仕切府

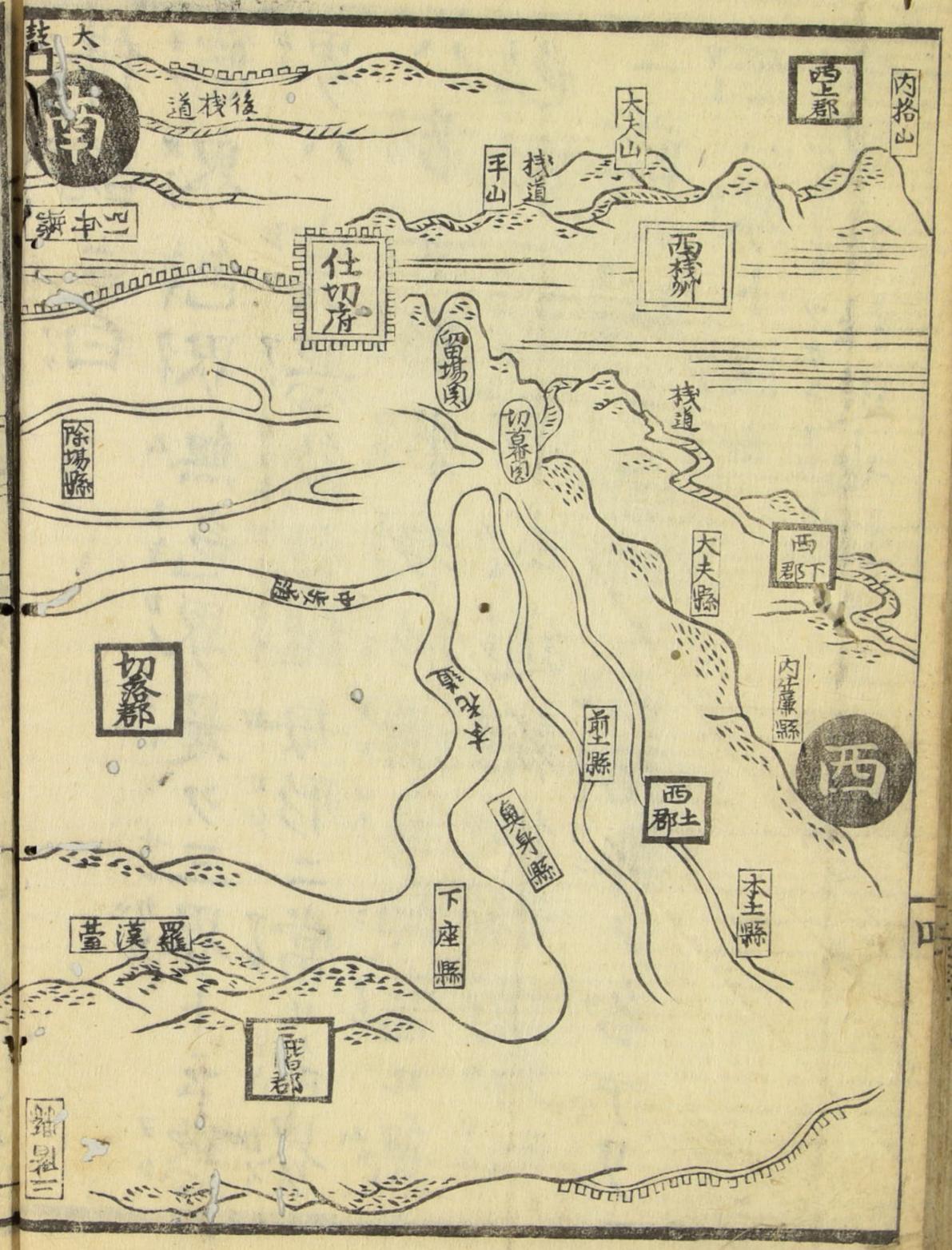
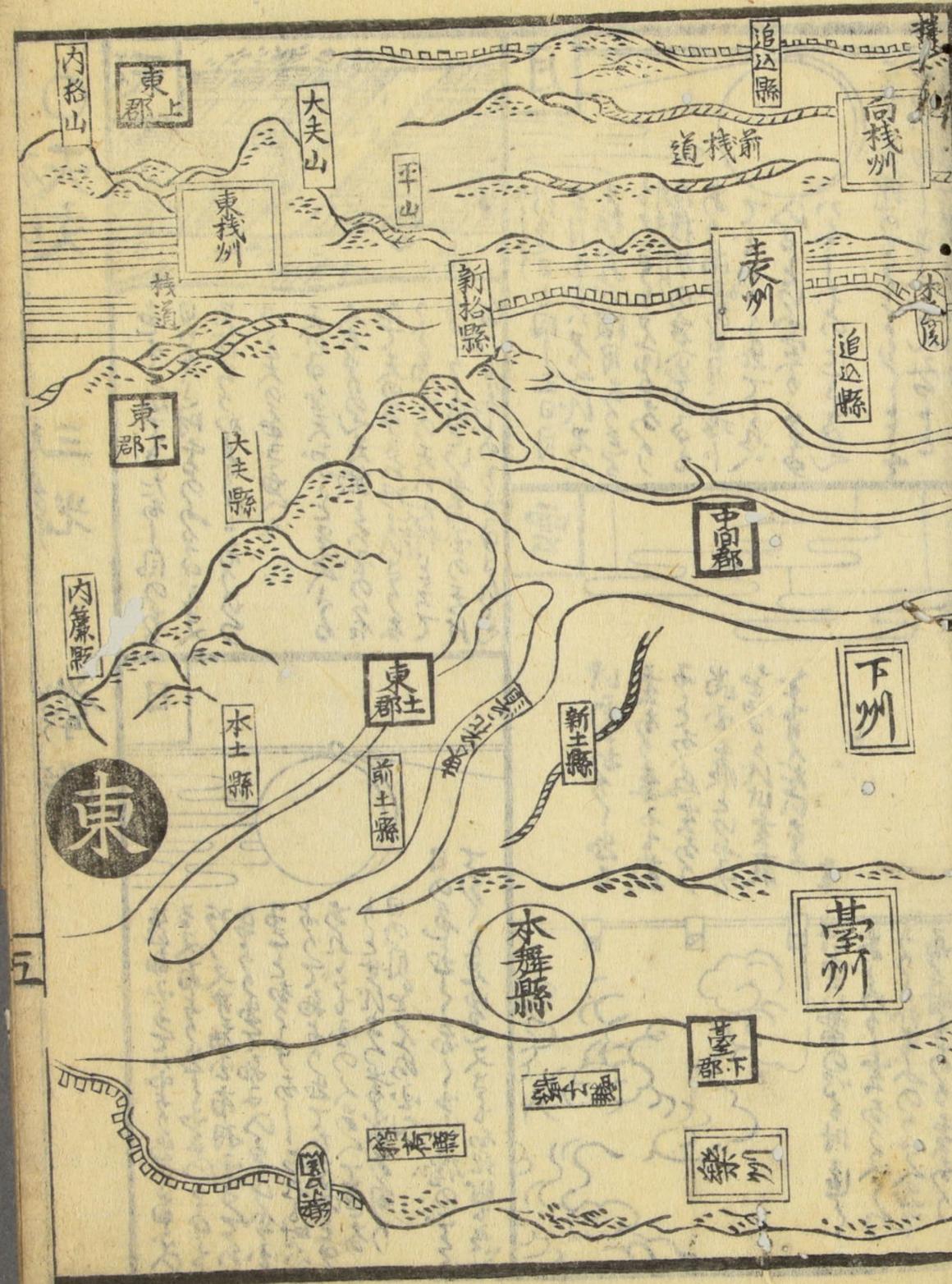
右州郡縣ノ関名三国共ニ同シ但中国ニテ東ト呼ブモノ森林国ニテ南
ト云西ト呼モノ森林国ニテ北ト称スルノミ

中勘國之圖

市羽国 森林勘国 並ニ同シ 准之可知

佛説ニ白

慾界 色界 無色界 是シ三界ト云 慾
界ハ 實惡 歎 役 繼 母 形 二 當ル 色 界
ハ 若 女 形 若 衆 形 濡 事 師 當ル 無
色 界 ハ 荒 事 武 道 親 仁 形 道 外 形
二 當ル 故 二 樂 州 二 三 階 郡 ノ 名 アリ
階ハ 界ト 同ジ
此説 在 杜 選 也 信 スル 二 足 ラ ス



○ 觀 望 小 説

1. 平 本 一 大 志 望 一
 2. 地 理
 3. 土 水 火
 4. 岩 石
 5. 火

○ 地 理

土

水

火

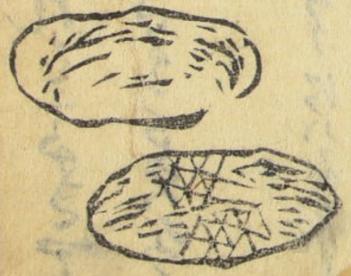
土

平本一 大志望一
 地 理
 土 水 火
 岩 石

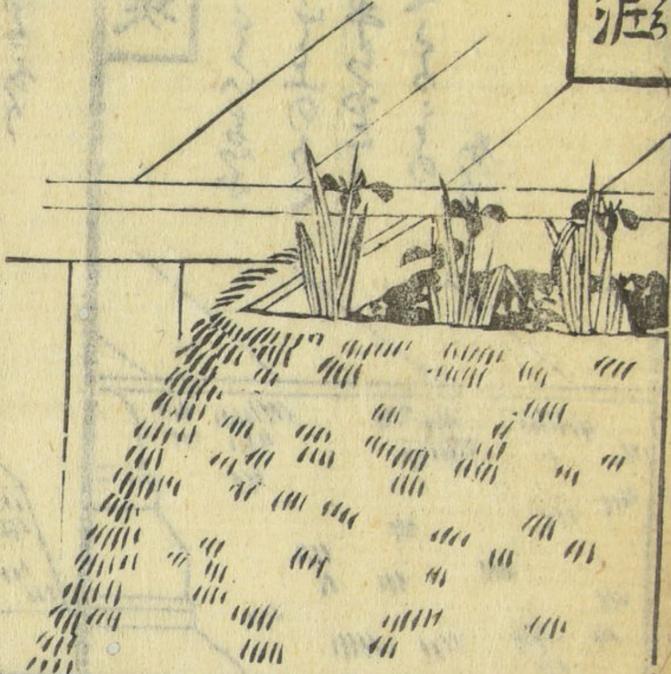
岩

石

真の... 地...



泥



田或ハ泥多と云ふの土之由入る人
と見るふとの無感ある人ありて
洗へ入ると云ふ神の生かしてあり
てうくこゝと云ふを并の事有す
形ありて泥多と云ふと云ふ教
と云ふと云ふ

海

他玉の海と云ふは
かとの海と云ふは
ありてありてあり



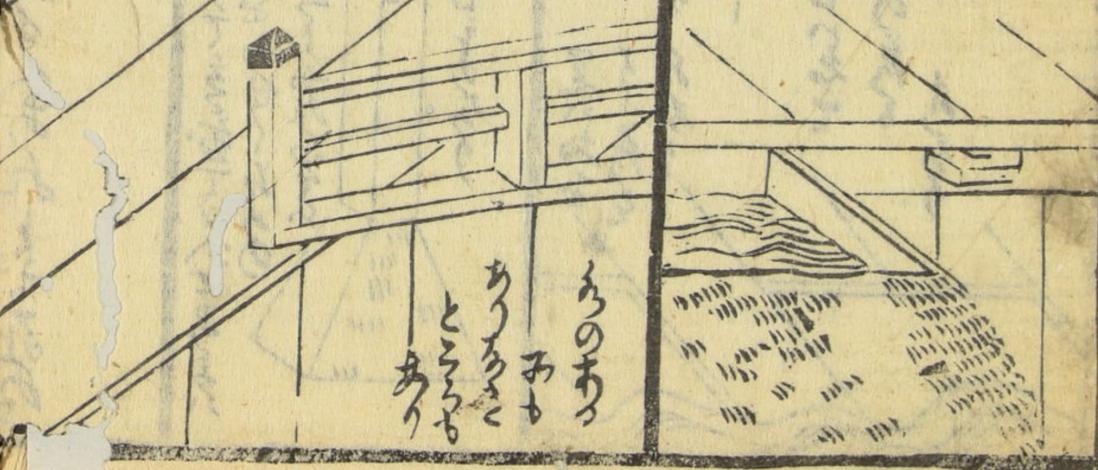
寛
是れを海と云ふの如く
をんちの流しと云ふは
はるかに入るの時流れ
よのあり人せきせ
福の小流と云ふあり

池

池かこも
川玉ても
あまろ色ハ
深くかとり
しれあり

橋

余かの橋
の修り
と云ふも
と云ふも
ありて
ありて
ありて
ありて
ありて



氷

氷を
と云ふは
ありて
ありて
ありて
ありて

瀧

瀧を
と云ふは
ありて
ありて
ありて
ありて

水

水を
と云ふは
ありて
ありて
ありて
ありて

樋

樋を
と云ふは
ありて
ありて
ありて
ありて

田

田を
と云ふは
ありて
ありて
ありて
ありて

右大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

○家作

大内

大内は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

宮

宮は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

撞撞

撞撞は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

能舞

能舞は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

蔵

蔵は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

門

門は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

大茶屋

大茶屋は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

郭

郭は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

郭

郭は奥の御所の外にありて大工のしと記入玉所と社とも不入用次第ありしゆれ
園あればちるすふしとありて後有ふとすしと思ふ

大

捕

猿

鹿

捕は日なり也代やもく上はあつとんとそのあつの人をけりあつ
捕は日なりとすあつとんとそのあつの人をけりあつ
まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ

獅子



握く 是は獅子の舞をけりあつとんとそのあつの人をけりあつ
まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ
まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ

神

猫

氣

まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ
まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ
まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ

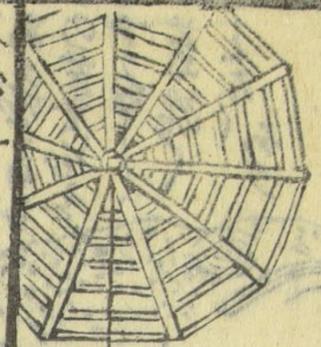
蝦



蝶 是は蝶の舞をけりあつとんとそのあつの人をけりあつ
まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ
まよふあつとんとそのあつの人をけりあつ



蟹 是し高大ありては活きしり
 けちしうして多量なとより
 ちつきすある物あり葉も糸も
 入るすて千とさきとのちり



けちしうして多量なとより
 さる糸はりのりとり
 けちしうして多量なとより

蛇 高玉のへひ
 つらみちうて
 ちしうりき
 あつりのまき
 女のちや女のち
 ちしうりき
 ちしうりき



蟹 甲人の
 甲のこ
 夏へけてあると
 平家蟹
 月より
 師をえりて
 出ると武文蟹
 とりてはむしやま
 てあつちの果あり
 相違ありとのちり



守 虫 虫ふちふ他玉のちり
 丁小佐人とあつち
 虫に負女にさしり
 ちしうりたんくま
 ちしうりたんくま
 ちしうりたんくま
 ちしうりたんくま

蟹 高玉のへひ
 つらみちうて
 ちしうりき
 あつりのまき
 女のちや女のち
 ちしうりき
 ちしうりき



蟹 高玉のへひ
 つらみちうて
 ちしうりき
 あつりのまき
 女のちや女のち
 ちしうりき
 ちしうりき

蟹 高玉のへひ
 つらみちうて
 ちしうりき
 あつりのまき
 女のちや女のち
 ちしうりき
 ちしうりき



○生植

木竹草

木

節玉の法本をくくりて移さぬるもの土
はくあやま合ひぬる人へもあつたつたさむい木は
少りんと上のく移さくあつたすけあつたさむい
大あつたつたをくくりて移さすとあつたつたあつた
りつたつた

松



松樹あり
思入智多
あ

楓



一年中紅葉
くて赤く
葉赤く
くは赤く
あし

柳



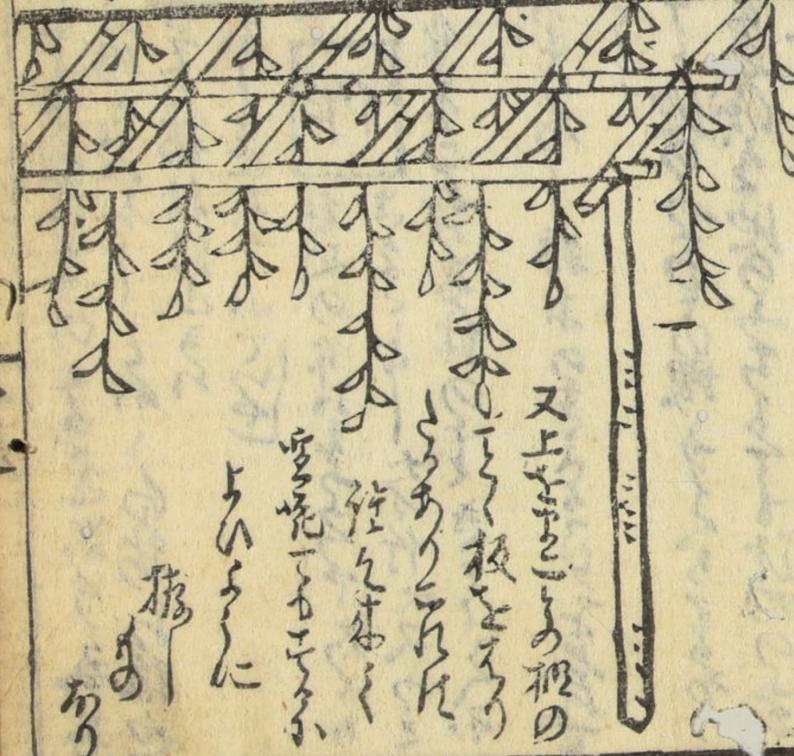
柳本はれきあり木のわりりつたあつた
のあつたあつたのあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつたあつた

藤はくはあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつた



藤

藤はくはあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた
あつたあつたあつたあつたあつた



竹

あり

骸骨

白骨の支むをうれせ
金まことのあつ踵の上
あつは解死して後
あつられらるをその
まふらふを



人面瘡

離魂病

人面瘡の由はとやう
病を傾城しつらとよの病りり
狂氣

人面瘡の由はとやう
病を傾城しつらとよの病りり
狂氣
狂氣
狂氣

瘡

瘡
瘡
瘡

盲

盲
盲
盲

雀目

雀目
雀目
雀目

啞

啞
啞
啞

癩

癩
癩
癩

瘰

瘰
瘰
瘰

癩

癩
癩
癩

癩
癩
癩

- 官位 并 名字 衣服 飲食

豆腐 やわらかい人のあこまのせるともあり田舎かゝるもの

童子 是れがまが

河編 これ七八とに

神酒 令の生るものあれともまじ

白酒 るるあるもの

雜穀 雑穀類の類あり

鹿子 鹿子ホ中勘国市初日用所也仕切府三用ル餅鹿列

器財 器財

名劍 村雲宝劍

十束劍 友切丸

膝丸 鬼切丸

蛇返大刀 蛙丸

王之御劍 ホ此外於みべけいり道も月ありて

干珠 満珠

名玉 神聖之御玉

夜光の玉 躑躅の珠

面向不肯珠 劍小あつ

名鏡

内侍所中鏡

八咫の鏡

標鏡

野守の鏡

あり初ましくをを特多しりあるをとみくんとんいせし

鏡

作名あり日本のごくんゆり又もあや又相録の又のごくん

あやと見えゆひ必ありあつ洋一物ある後かんとく日行のよりあ

皆ふあつえゆりあゆありあつて又相何あつても又のこあを

懐劔

武家にもあつていせいせとつひ小肌ををあつてさうあやに

用ひまてどもあつてあつては候とあつてあつてあつて

印

玉の印カンワノ印

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

守

守り守り守り守り守り守り守り守り守り守り守り守り

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

旗

日月の旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗旗

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

弓

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

矢

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

鞆

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

あつてあつてあつてあつてあつてあつてあつてあつて

何れも此の如き物ありては... 何れも此の如き物ありては...

切手 物場の切手大町の切手... 切手 物場の切手大町の切手...

襦 何れも此の如き物ありては... 襦 何れも此の如き物ありては...

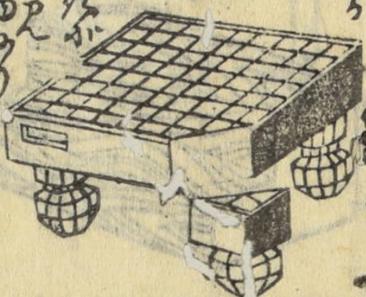
何れも此の如き物ありては... 何れも此の如き物ありては...

雲龍

此の字の... 此の字の...

何れも此の如き物ありては... 何れも此の如き物ありては...

碁局



碁局 何れも此の如き物ありては... 碁局 何れも此の如き物ありては...

何れも此の如き物ありては... 何れも此の如き物ありては...



三方 何れも此の如き物ありては... 三方 何れも此の如き物ありては...

杯 何れも此の如き物ありては... 杯 何れも此の如き物ありては...

茶碗 何れも此の如き物ありては... 茶碗 何れも此の如き物ありては...

烟草 何れも此の如き物ありては... 烟草 何れも此の如き物ありては...

土圭 何れも此の如き物ありては... 土圭 何れも此の如き物ありては...

何れも此の如き物ありては... 何れも此の如き物ありては...

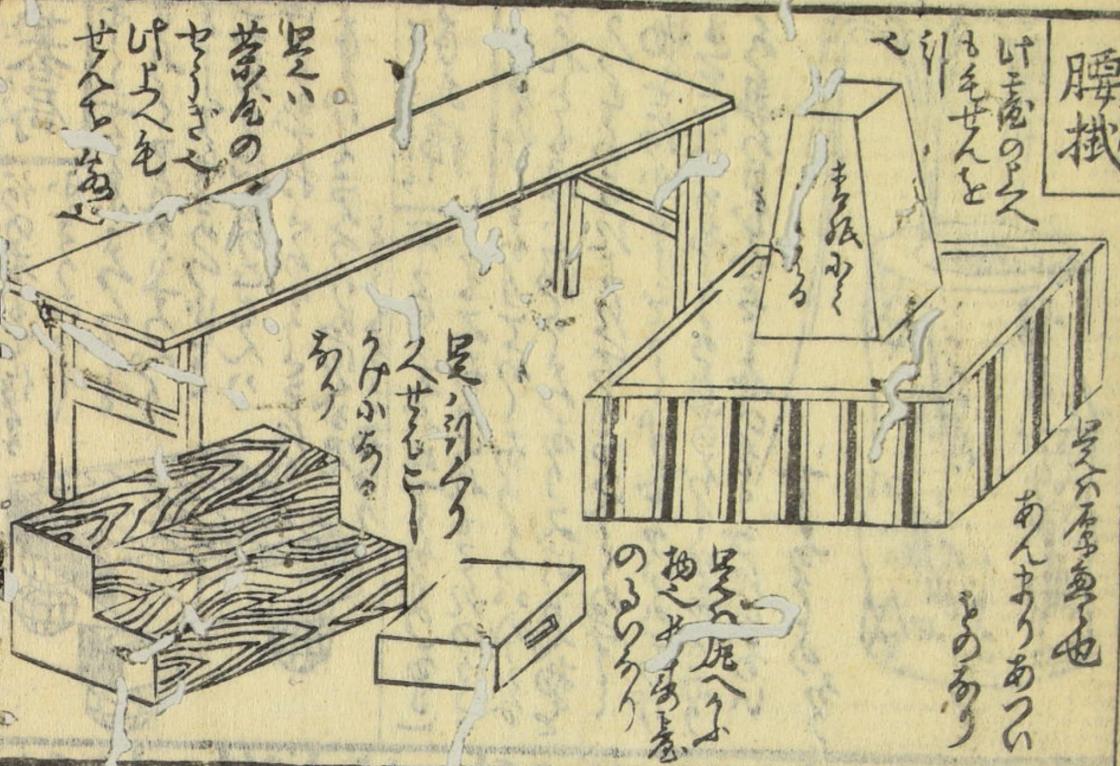
何れも此の如き物ありては... 何れも此の如き物ありては...



今の新茶

腰楯

けしきの上
もせんと



腰の厚も也
あんまりあつ
いものあり

腰掛

はみくる腰を
用ひて入る
大なるもの
もあつても
るものあり
よりひきま
くるとのあ
り

腰掛

大なるもの
もあつても
るものあり
よりひきま
くるとのあ
り

茶子

けしきの上
もせんと

柱杖

柱の中刃を仕
込む杖を仕
込む杖を仕
込む杖を仕

位牌

位牌のあり
けしきの上
もせんと

腰楯

腰楯のあり
けしきの上
もせんと

腰楯

腰楯のあり
けしきの上
もせんと

腰楯

腰楯のあり
けしきの上
もせんと

腰楯

腰楯のあり
けしきの上
もせんと

腰楯

腰楯のあり
けしきの上
もせんと

寬政三歲 辛亥 正月吉日

畫工 蘭德齋

橫山町壹丁目

江都書林 鱗形屋孫九衛門

板元

心木同屋 鱗形屋孫兵衛

壬戌年 壬申五月柳塘攤書鋪購得

牛山堂丁 謹啓

